

第34回 大鹿村リニア連絡協議会質疑応答概要

日時：令和6年12月17日 午後6時30分から

場所：大鹿村交流センター

1. 県発注工事について

Q：松川インター大鹿線の路面補修についてお願いしたところですが、具体的な箇所を言っていたきたいとのことでしたので箇所を説明します。

二軒屋の橋の2ヶ所、松川から来て慰霊碑を過ぎた先のカーブ、井戸入沢の松川側の陥没、落合トンネルの松川側の凹凸の4ヶ所ほど具体的な箇所が上がってきております。説明の中にあつた箇所もあると思いますがよろしくお願ひします。

県：二軒屋の橋の2ヶ所については、先ほど説明しましたように春以降、施工する予定になっております。井戸入沢の舗装については、直接役場からも連絡いただひており、業者にお願ひしてあります。慰霊碑先のカーブ、落合トンネルの中川村側については、今日お聞きしたばかりなので、現地確認して対応したいと思ひます。

2. 南アルプストンネル工事・伊那山地トンネル工事について

Q：ダンプの事故が近いうちで2件ぐらい起きてると思ふが、下青木の事故があつた箇所の修復はいつ行ふのか。

もう一点、延期というのが資料の中でもあつたと思ふが、村や県とは次の延期はないというような約束はされてるのか。

JV：事故の起きた箇所のガードレール等の復旧について現在、県の維持管理課と復旧の方法、時期についても調整を行つており、今のところ3月ぐらいを目途に考えてあります。

JR：工期につきましてはこれまでも県、村からこれ以上の延期は許さないというようなお話を伺つてあります。我々もリニアの早期開業当然のことながら、その前に工事を早期に完了させる思ひは一緒ですので、それに努めて頑張つていきたいと考えてあります。

Q：説明会で何回か言つたことがあるが、開業時期を示せない民間事業は失敗だと思つている。リニア事業も失敗だと思つているが、それは別として早く工事を終えてほしいとい

うことではなく、工事がうまくいってないのであれば中止してほしいと思っています。そこは安全重視でもし続けるのであれば配慮してほしいと思っています。先ほどダンプの事故があり、眠気を催して落ちたということだったと思うのですが、2ヶ月続けての事故だったと思う。私も眠気を催して落ちる気持ちはよくわかって、小渋線を走っているとダンプに挟まれたりすることは度々あるので本当に眠くなる。今回落ちたのはダンプだったが、村民が落ちないことは当然ないことはないと思う。

明らかにこれは、ダンプの台数も含めて工事車両が多くなっていることと関連していると思うが、前回説明会があった後に長野県の方とお話する機会があって、前回の転落事故においても、物を取ることがきっかけだと言われ、県の方はそこまで予想できないと言われて、そうだと思うが今回に関しても袖をまくろうとして不注意になったということで、確かに予想できないと思う。

しかし2ヶ月続けて事故が起きたことは、大変危険性が高まっていると思わざるを得ないが、そのことについて県の見解を教えてください。

県：地籍は中川村ですが近隣での事故が続いていることで、道路の管理という面で足りないところについて危険な箇所は、ガードレールを設置したり、注意喚起のデリネーターを設置したりの対策はしていますが、台数の増加にもう少し対応ができないかということかと思えます。

舗装の補修ですとか、走行の安全性が確保されるようにやっていますが、交通量自体を制限する形での対策は取れない状況です。それぞれの事業者でご注意をいただく、道路管理者でもなるべく安全な走行ができるものを確保していくことかと思っています。

Q：交通量の制限が取れないのは一般論として道路管理者はそうだと思うので、自治体としての村も含めた対策が求められると思う。村の方でも考えてほしいと思うが、対策をしてきた中で2ヶ月続けて事故が起きていることが問題だと私は言っているのも、これからダンプが増えるそうなので、ここから先似たような事故が起きた場合は、業者の責任は当然あると思うが、行政側の管理責任も今、私言いましたので重要なことになると思います。その辺わきまえていただければと思います。

Q：飯田の方に要対策土を運ぶ計画が12月の予定だったが、今環境保全の手続き中で終了次第というお話があったが、県の環境影響評価技術委員会でその件が審議されており、減多にないことだと思うが1回の審議ではちょっと継続になり2ヶ月後、再度検討をされたが、大鹿の残土の行き先で気になって資料等見ておりましたら、要対策土の量として、今まで連絡協議会で示されてきたのは、小渋川非常口横の仮置き場に5,000 m³仮置きして

あることはお聞きしていたが、南アルプストネルの坑内に 12,000 m³あるというような資料が出ておりどういった状況なのかお聞きしたい。

JR：飯田市の土曾川で要対策土を活用する内容については、継続審議の中でどのような対応をしていくのかを丁寧に説明させていただき、委員の先生皆様には理解を深めていただいていると思っています。現在、県の助言の回答対応をしておりそちらの方が終わり次第、改めて時期等についてお知らせをさせていただきます。

要対策土の土量については、仮置き場Eに置いてあるヒ素が超過している 5,000 m³の他に、今年の7月まで施工しておりました蛇紋岩のホウ素が超過したものが、先進坑のときに超過したものを合わせて 12,000 m³、本坑の坑内の中に置いてある状況です。こちらは石綿も含有しており、外に出せないということで、坑内でモニタリング等対応しながら仮置きをしている状況です。こちらの 12,000 m³は現在変電所で計画している擁壁の中で活用の検討を進めている状況です。

Q：その場所に出ている分はもうそれで一応終わっている。それ以上は増えない理解でよろしいのか。

JR：蛇紋岩の区間については先進坑で約 120m出現しました。本坑についても今年の7月でその約 120m区間を突破しまして、それ以降蛇紋岩は出現しておりません。基本的にこの先は出てこない想定しています。

Q：蛇紋岩ということで気になるのは、青木川工区でも長い蛇紋岩の区間を通ると思う。そこで同じようなものが出てくる可能性があるかと想定されるのか。

JR：青木川工区についても元々当初は、約 1 kmの範囲で蛇紋岩が出現すると想定していました。現在、現地の踏査等を行い、まだ蛇紋化していないかんらん岩相当の岩が主流ではないかという今見立てを立てています。

しかし、蛇紋岩も当然出てくる想定をしています。その場合は、長野工区と同じく石綿の調査をしながら工事を進めていきたいと考えています。

Q：小渋川の変電所造成で、擁壁に 10,000 m³を使うと計画に書かれていた。それでもまだ 2,000 m³残るし、さらに増える可能性があるが、行き先についてはまだこれからということか？

JR：自社用地を含めて活用先を現在検討しています。

Q：中川村の小和田地区の基盤整備事業で運搬期間が令和12年春までということだったが、発生土仮置き場の計画では12年まで置くものはない計画になっているが、この差は他に置いてあるものが、12年春まで置いてあって運搬するということになるのか。

トンネル掘削が10年ぐらいに終わると聞いていたが、そこで発生土運搬もほぼ終わると思っていたが、まだ続くのはどの程度の台数で続くのか。

JR：今年6月の工期の見通しの説明会の中で、運搬台数についてもお示ししております。まず現在はほぼピークの状態です。今後は、2027年に青木川工区の掘削が終わってピークが落ち、その後、2028年度末の長野工区の掘削が終わって、かなりの台数が落ちてくる予定です。

しかし、その後も路盤の施工に際して、若干下を整地したり、資機材の運搬もこの中に含んでおり、そういう台数も含めて2028年末以降も約200台程度の推移で進んでいく状況を考えています。

仮置き場Aの期間に対して小和田12年というところですが、仮置き場Aで置いてある土を出して行って、小和田でどのように造成していくのかはありますが、例えば小和田に少し仮置きをして12年まで造成の期間がかかる場所も含めて、今計画をしているところ です。

Q：前回、1日5000tの湧水が釜沢除山非常口だと思うが、出ているのを見て質問させていただいて、量が多いのか少ないのかよくわからなかった。JRはあり得る数値だと仰っていたが、県の環境委員会を見ると委員の方は、5,000tという数量に大変驚かれていたというような議事録がありました。そこは専門家の見解の違いだと思うが、例えば管理値があると思う。山梨であれば10mの掘削に対して、秒間50L出ると工事を止めるというようなことがあると思うが、長野県側ではどのような管理値があるかを聞きたい。

変電施設の工事は、今年秋ぐらいに始まると当初言っていたと思うが、それが来年4月以降に繰り延べされてしまった理由を再度確認させてください。

その時にあそこは上蔵ですが、上蔵内の道路通行止め等になると、業者の方が了承もらいに自治会長のところに来るが通行止め措置はあるのか。

前も質問したが、今大量にヤードの中に止めてあるダンプがあると思うが、あれの置き場はどうなるのか。1年位前に聞いたことがあるが、その時は検討しますということだったが、今どのようになっているのがお教えてください。

JR：50L 毎秒で止める話ですが、おそらく静岡の話かと認識しています。またこの 50L もトンネルではなく、山梨から行っている水平ボーリングの数量だったと認識しています。

トンネルでは更に多い数字で静岡県庁の専門部会にはお示ししていると思います。かなりこれよりも多い量だったと認識しています。数字の方は把握しておりませんので確認しておきますが、その数字よりは遥かに小さい値が 1 日当たりというところで、現在出ていることは前回の協議会でも説明いたしました通りです。

変電所前の村道の通行止めは現在考えておりません。迂回路を施工して通行には支障がないようにすることを今考えています。当然のことながら我々の計画は、道路管理者である村、河川管理者、協議相手の皆様にご了解をいただいて施工することで考えています。

JV：ダンプの仮置き場ですが、仮置き場 E に駐車しておりますが、工事中も仮置き場 E、夕方になれば平になりますので、置けないというわけではありません。また、トンネルも大分進捗していますので、坑内に置いたりする等してダンプの置き場は確保できると考えています。

Q：ボーリングであるかどうかは別として、長野県内では数値は小さいとしても管理値はないと理解してよろしいですか。それから利害関係者に了解いただいて工事を進めることは当然だと思うが、上蔵は当該自治会ですが何回も言いましたが困ったと思って、事前に説明会の相談もなされなかったし、これできちんと説明されたら説明されても、理解されても自治会長としては困る。JR は上蔵の自治会には了解いただいたと考えているのか。

JR：管理値の話ですが、どの程度出たら止めるという管理値については、数字として定めていないのが長野工区の現状です。

説明についてご了解をいただけないとお話いただきましたので、我々としては説明会等開いて、ご理解いただいたと思っている部分もありますが、自治会長としてご了解していないということでしたら個別にまた説明に伺いたいと思います。

Q：10 月 29 日に残土についての説明会があり説明会を求めた人間ですが、説明会については、別の要件があり出席できませんでした。そういった場合にメディアも今日来られているが、きちんとメディアが中の様子も含めて外の人間に知らせるのは、私も報道の仕事をする人間なので業者あるいは行政、そして住民等、メディアは協力関係にあると思います。毎回、説明会では説明会のあり方について冒頭のみではなく、説明会の中身もオープンにしてほしいという住民の声が何回もあり、私も以前それについて強く求めたことがあります。

J Rさんは自由に発言ができなくなるとの説明でずっと拒否し続けているが、自由な発言の場を確保するのであれば映りたくない、発言について取り上げて起こして欲しくない人は、別途撮影することを控えることができるはず。一律にメディアに撮影させない、住民に対しても撮影させない措置がずっと続いており、これは本当に業者や行政とメディア、あるいは住民の協力関係について阻害するよくないことだと思っているが、J Rさんに言っても全く変わりません。長野県さんはそういった事態をずっと見てたと思うが、協力関係を業者に求める側として、どのように考えているのか見解を教えてください。

県：各地、各市町村で行われております対策協議会等については、公開の場で資料等の説明がされている状況があり、個別の説明会については、従前はおっしゃるように、あまり公開という形では開催されてこなかったと認識しています。

今年に入り事業期間の延伸といった、大きな課題、大きなテーマがあり各地の説明会もなるべく公開でやっていただくように、私どももお話をさせていただいたところです。実際に飯田市内ですとか、説明会についても公開でやっているところもあるので、その辺については市町村の方、地元自治会等と相談をいただいて、なるべく公開というような形で取り組んでいただければというのが、私どもの考え方です。

ただ、事業者のご都合も当然あるものですから、そこは強制をするべきものではないと思っています。

Q：長野県さんの意向がよくわかってよかったです。なるべく公開でやるが、公開したくない人も当然いますので、利益の相反については調整できる問題であると、先ほどから言っているのが発言の趣旨です。その点、J Rさんも今後ご了解いただければと思います。

先ほど JR さんに要対策土置き場のこと、変電所施設のことについて、地元の自治会から申した理由は、説明会をするにおいて役場とは相談したと思うが、当該自治会にどのような説明会をするかについて、事前の説明会がなかったことが困る。そういったことがないように長野県さんも今後注意して見ていただきたいと思っています。

3. 送電線工事について

Q：ナラ枯れの状況を調べていただきありがとうございます。この写真を見るとなるほどだと思います。これ子供の夏休みの宿題の材料にいいと思いますので、お子さんがいましたらよく見とけと教えてあげてください。あるいは森林学の専門家もこれを材料に論文を発表したら、ネイチャーやサイエンスに載るかもしれない。引き続き注目していただきたいと思っています。

緑化・植栽工事完了後という写真でお尋ねしたいと思います。新しい知見で木は隣同士で栄養を融通しあって成長することが分かってきています。その仲立ちをするのが土にある土壌菌で、隣の木に栄養を渡す、貰うことをしていることがわかってきています。土壌菌が沢山ないと、成長としては多分遅くなるということが言えると思う。

この写真を見ると、とても土壌菌が沢山いるような写真ではないので、是非ともそこまで面倒見てくれとは言いませんが注目してください。落ち葉が沢山あり栄養たっぷりの土で木は安心して成長すると思いますのでよろしくお願いします。

村にお願いですが、今回大西山のナラ枯れを調べていただいて、これからどんどん広がっていくと思います。秋に鳥倉で木を見たがナラ枯れが起こっています。何とか広がらないように手立てをとっていただきたいと思います。どのようなお考えを持っているか村に教えていただきたいと思います。

中電 PG：木の植栽についてですが地籍が保安林になっており、保安林には工事完了後、一定本数の木を植えることに法律上になっており、本当に山砂のようなところで落ち葉のような堆肥がないですが、法令に則りまして当社で植えさせていただきました。

今後の観察等は行っていきます。

村：ナラ枯れの対応ですが、ナラ枯れについて既に全県的にも非常に広がっており、当地域のみならず上伊那、それから諏訪地方、先般も南信の林務の関係の会議があり、各地域からナラ枯れの報告が上がってきています。

村でも松くいと同じように全て対応できればいいですが、かなり広い範囲で本数もあります。できるだけ広がらないように県の林務課とも相談しつつ、対策をできるものについて順次しているのが現状です。広範囲で本数も規模も多いことで、全てというわけにはいかないのが現状かとは思いますが、少しずつ進めている状況です。

Q：大西山は大鹿村の登山で大変貴重な資源の一つだと思っています。鉄塔を建てることは、当然付加価値を大変下げってしまう残念な行為だと思うが、大西山の山頂に至るにおいては尾根上ですので、かつては尾根上を通過して、尾根沿いに山頂に向かっていった道ですが今、多分林野庁かもしれないが、旧道に沿って下から見た尾根の右側、松川町側を迂回する形で登山道が付けられている状況になっています。

登山する人間として鉄塔の下を通りたいとは思いませんが、山頂に至るにおいては鉄塔の下、あるいは稜線を通るのが一番早い道なので、今後登山道をどうするかについて中部電力さんだけで決められることではないがお聞きしたい。

中電 PG：弊社は、元々あった登山道を一旦迂回させていただきましたが、そこに造ったモノレールも既に撤去しており、元々の登山道も通れるようになっています。

また弊社で鉄塔、鉄塔間を巡視のために歩く必要が生じた時のために、巡視路を整備しています。弊社の社員だけが使うわけではなく、皆さんが使っていただいても構いません。通りやすい方を通っていただければと思います。巡視路に対しては、当社の方で補償して土地所有者にご了解を得て整備しています。

Q：今柵があって立ち入り禁止措置になっていると思うが、それがなくなることでよろしいか。

中電 PG：その通りです。

4. その他について

意見なし

5. 事務局からの報告について

意見なし